

東京都立五日市高等学校
(定時制課程)

東京都立五日市高等学校（定時制課程・併合科）

1 はじめ

本校は、定時制課程で現在、普通科・商業科からなる併合科1学級1クラス合計4クラスの小規模な学校である。

東京都で平成19年度から必修化された教科「奉仕」の取り組みとして、本校では、音訳（音読）指導を行っている。地域の朗読ボランティアサークルの協力を得て、生徒が実際に民話、童話、エッセイなどを録音したテープを作成し、あきる野市内の視覚障害の方々に差し上げるという奉仕の授業を行っている。

2 経緯（動機付け）

本校では、毎年、奉仕活動は第1学年で行う。単位数は1単位、教育課程の位置付けは、「総合的な学習の時間」の代替として週時程（毎週水曜日2時間目）にて実施している。文部科学省でいう「総合的な学習の時間」とは、「各学校は、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする」（平成11年度版）とされている。

また、教科「奉仕」は、「①社会に役立つ喜びと意義を深める。②社会に役立つための知識と能力を高める。③社会の様々な課題を知るとともにそれに立ち向かう意欲を高める。④様々な立場の人々と共に生きるための生き方を学ぶ。」ことがねらいとなっている。

私たちは、校長の経営方針に則り、生徒達に社会に役立つ喜びや、勤労の大切さなどを体験的に学ばせるにはどうすればよいか、生徒の実態・地域性を十分に考慮し、奉仕活動の内容を当時の先生方と真剣に考えた。地域性の面からは高齢者施設が周りに多くあったこと、アンケートをとってみて多くの生徒の希望が音訳（音読）だったことなどにより、本校の奉仕活動の内容が決まった。

3 総合学習「奉仕」の目的（ねらい）

- (1) 総合学習「奉仕」の意義について理解するとともに、地域社会に貢献できる資質を育成する。
- (2) 障害に対する正しい認識と理解を深めるとともに、連帯感の育成を図る。
- (3) 高齢者との異世代交流をとおして、高齢者に敬意をもって接する態度を身に付けてさせ、これから生き方のヒントを得させる。
- (4) 横断的・総合的な学習により、自ら課題を発見し、主体的・創造的に取り組み、自己の在り方生き方を考えることができるようとする。

4 総合学習「奉仕」の授業

- (1) 「総合的な学習の時間」として週時程に位置づけて実施している。
- (2) 1年次の「総合的な学習の時間」を「奉仕（1単位）」として構成している。
- (3) 事前学習では、「奉仕」についての意義、重要性を学び、奉仕体験活動に向けた準備学習を行った。
- (4) 体験活動では、今年は5つのグループに分かれて音訳（音読）活動を行った。

(5) 事後学習では、自己評価・相互評価票を作成し、生徒自らが企画した発表会を行う。

5 校内体制

本校では、奉仕の授業を行う担当教員は、下記のような決め事がある。

- ・第1学年担任及び2名の教員、計3名で行う。その他、場合によっては、副校長も指導にあたる。
- ・外部講師対応は、原則として奉仕担当責任者が行う。

6 連携先

- | | |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 奉仕事前学習 | ア ピアサポートネットしぶや
イ 日本介護福祉士会
ウ 青年海外協力協会
エ 災害救援ボランティア推進委員会
オ 嘉悦大学教授（盲導犬関係） |
| (2) 奉仕体験活動 | ア 音訳・朗読の会ブライユ |
| (3) 奉仕事後学習 | ア 音訳・朗読の会ブライユ 等 |

7 授業内容

(1) 事前学習

本校では、毎年1学期に、奉仕講演会を定期的に行っている（9月以降の奉仕体験活動の内容を決めるための話し合う素材になればと考えている）。

また、講演会は事前学習を通して奉仕体験活動の意義と重要性を生徒に知ってもらうためのものもある。さらに、外部から様々な立場の方々が実際に授業を行うことにより、適度の緊張感も生まれ、コミュニケーション能力育成にも役立っている。

ア ピアサポートネットしぶや



【生徒の感想等】（一部紹介）

- ・震災により、想定をこえて築いてきたモノを失う絶望感の怖さを知った。
- ・悲しみの重さ、仲間がいる幸せを知った。
- ・今まで以上に協調する力をみがきたいと思った。

生きかされている命とは何かも学びました

イ 日本介護福祉士会

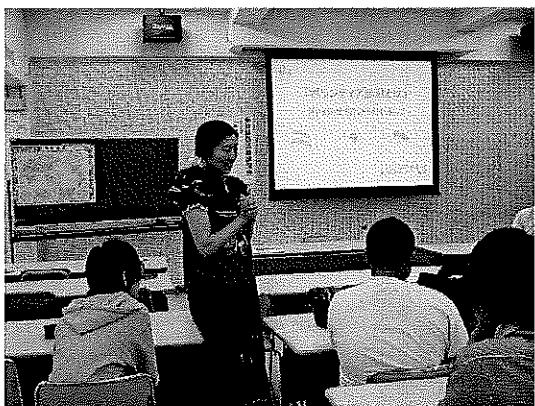


声をかけてその人に合った対応をすること
が大切であることを知りました

【生徒の感想等】（一部紹介）

- ・どのような介護技術があるかを学習できて嬉しかった。
- ・介護や福祉の仕事に興味をもつことができた。
- ・奉仕の大切さを学べて良かった。
- ・点字ブロックやバリアフリーなどの重要性を知った。

ウ 青年海外協力協会



いろんな角度からものを見られることの
大切さが奉仕には重要であることを学習
しました

【生徒の感想等】（一部紹介）

- ・相手のことを考えて話すことが大切だと気付いた。
- ・日本と違った環境の中での奉仕活動は大変だと思った。
- ・自分も人のために何ができるのかをもっと深く考えようと思った。

エ 災害救援ボランティア推進委員会

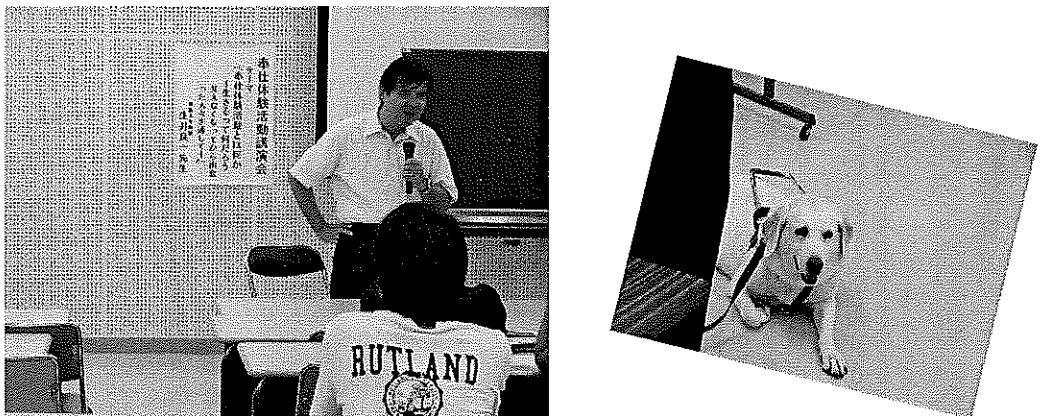


日頃から指示待ちで行動するのではなく、防災意識を高くもつことが不可欠
であることを学びました

【生徒の感想等】（一部紹介）

- ・東日本大震災・阪神淡路大震災の映像を見て震災に対する意識が変わった。
- ・今自分にすぐできることは何か。節電・節水・避難経路の確認等を行いたい。
- ・非常食はこんなに種類が多く、結構おいしかった。
- ・高校生ができる奉仕活動とは

才 嘉悦大学教授（盲導犬ナネット君）



盲導犬に最も必要なことは、マナーである
ということを学びました

ナネット君は、とても可愛く
人なつっこいです

【生徒の感想等】（一部紹介）

- ・全盲でもこんなに前向きですばらしい方と出会えてうれしかった。
- ・盲導犬が生活のガイドをしてくれるなんて初めて知った。
- ・「後悔をすることはしたくなかった、だからやることはやった」と力強く感動的な言葉だった。

【年間計画表 事前学習】

回数	月	学習内容
1	4	奉仕とは何か。 1年間のオリエンテーションも含める。
2		第1回奉仕講演会 奉仕とは何か 相川良子 先生（ピアサポートネットしぶや 理事長）
3	5	第2回奉仕講演会 奉仕とは何か 内田千恵恵子 先生（日本介護福祉士会 副会長）
4	6	第3回奉仕講演会 奉仕とは何か 白木明子 先生（青年海外協力協会）
5		第4回奉仕講演会 奉仕とは何か 宮崎 賢哉 先生（災害救援ボランティア推進委員会）
6	9	第5回奉仕講演会 奉仕とは何か 生井 良一 先生（嘉悦大学教授+盲導犬ナネット）

（2）体験活動

本校では、「奉仕」の授業で9月から1月までにかけて音読指導を行った。生徒の希望調査をもとに、近隣の音訳（音読）ボランティアサークルの方々にお願いして基礎から音訳について学習し、本格的な録音機器を使って、最終的には、特別養護老人ホーム等で読んでもらいたいと思われる単行本や民話、童話、エッセイ等パソコンを利用して録音し、CDやテープを完成させた。生徒達は、社会に役立つ喜びが体験できた、と非常に喜んでいた。

【年間計画表 体験活動】

回数	月	学習内容
1	9	朗読ボランティアの概要、正しく伝えるための重要性、望ましい音訳とは何か・発声、発音 アクセント辞典の使い方
2		まず短文を録音する
3		短文を読む（1） 速度・間と緩急・活舌と調音の練習、母音の無声化等
4		短文を読む（2） 下調べをする、表現の練習— 台風のため自宅学習
5	10	短文を読む（3） 表現の練習1（エッセイ・民話等）
6		短文を読む（4） 表現の練習2（エッセイ・民話等）
7		録音した作品をもとにミーティング等 題材・担当を決める
8		自主テープ作成（1） 短文を録音する（1）
9		自主テープ作成（2） 短文を録音する（2）
10		自主テープ作成（3） 短文を録音する（3）
11	11	自主テープ作成（4） 短文を録音する（4）
12		自主テープ作成（5） 短文を録音する（5）
13		自主テープ作成（6） 短文を録音する（6）
14		自主テープ作成（7） 短文を録音する（7）
15		自主テープ作成（予備1）（録音する（1））
16		自主テープ作成（予備2）（録音する（2））
17		訪問前のリハーサル（1）（録音する（1））
18		訪問前のリハーサル（1）（録音する（1））

（3）事後学習

毎年、生徒による校内発表会を行っている。事後学習とは、体験活動を通した生徒自らの振り返り及び評価を実施すること等により、活動内容等を検証し、その改善を図るとともに、幅広く対外的に発表し、地域の人々や関係機関等の理解を得たり、評価を受けたりするものである。生徒にとっても教職員にとっても、非常に有意義な教育活動である。

【年間計画表 事後学習】

回数	月	学習内容
1	1	老人ホームを訪問する（1）
2		老人ホームを訪問する（2）
3		奉仕発表会準備（1）自己評価票・相互評価票の内容の確認

4		奉仕発表会準備（2）自己評価票・相互評価票の内容の確認
5	2	奉仕発表会（1）自己評価票・相互評価票作成、奉仕発表会をする
6		奉仕発表会（1）自己評価票・相互評価票作成、奉仕発表会をする

8 これまでの成果と課題

（1）これまでの成果

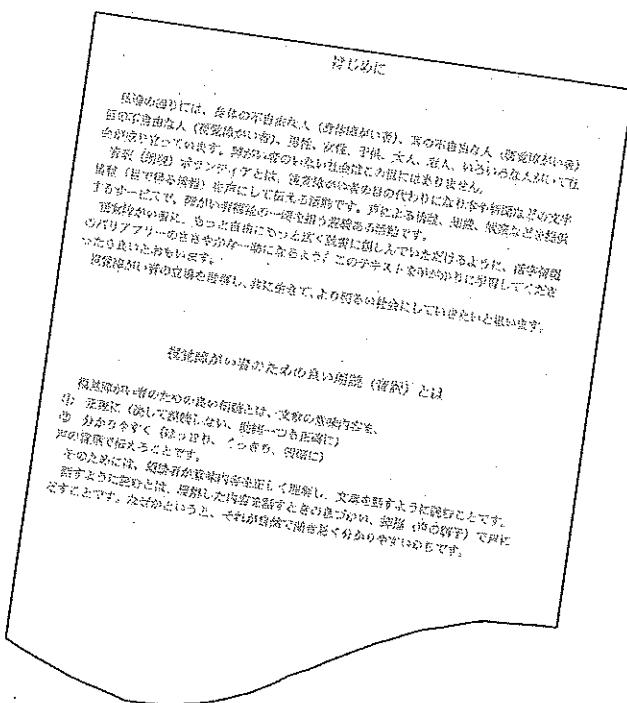
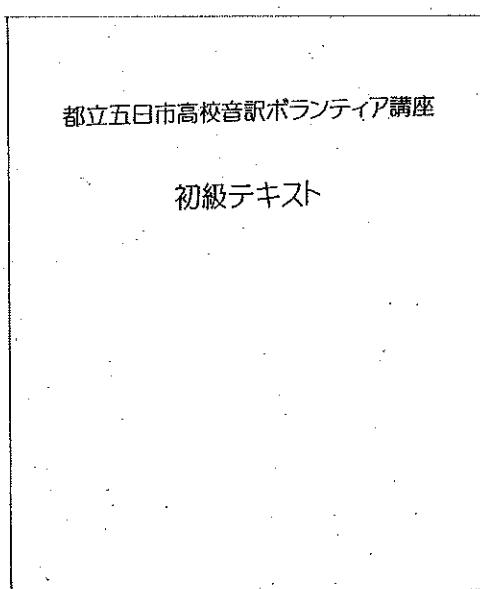
近隣の高齢者福祉施設等と連携することで、地域に貢献できる場と機会が増え、ますます地域との関係が深まった。だが、一番大きな成果は、生徒の変容がみられたことである。生徒一人一人が苦労して録音テープやCDを制作したことで様々な経験を積んだことや、他人に感謝されるという体験が生徒の達成感と自信につながっていったと思われる。また、外部の人々に接することで、ビジネスマナーやコミュニケーション能力が大幅に高まった。さらに、社会貢献に対する喜びを感じるようになり、奉仕に対して積極的に取り組むようになった。この活動を更に検証し、「学校は、色々な経験をさせてくれるところ、五日市高校に来てよかったです」と思われる学校作りをしていきたい。

（2）課題

課題としては毎回のように、ボランティアの講師の方々に授業に参加していただいているため、その準備の時間と打ち合わせに要する時間の確保が上げられる。また本校では、生徒の実態と実施内容に即した独自の“テキスト”や“記入用紙”を東京都のテキスト以外に用意したが、できればこのようなものが準教科書の中に入ると良いのではないかと思われる。

参考資料

独自のプリント等（抜粋）



東京都の広報紙に掲載されたものです。



地域と学校が連携した学びの試み

「学校は、色々な経験をさせてくれるところ、五日市高校に来てよかったです！」

都立五日市高等学校定時制と地域サークル「音訳ボランティアサークルえくぼ」

あきる野市にある都立五日市高等学校定時制では、地域の「音訳ボランティアサークルえくぼ」の協力を得て、高校生が実際に民謡、童話、エッセイなどを録音したテープを作成し、あきる野市内の視覚障害の方々に差し上げるという奉仕の授業を行っています。

外部の方の協力が生み出す効果に期待

この授業を担当している五日市高等学校定時制の竹田主幹教諭は、「外部の方々が実際に授業に入っていただくことは生徒にとって新鮮であるだけでなく、適度な緊張感があり、それが社会性の獲得に大きな効果がある」と話します。

あきる野市社会福祉協議会を通じて紹介された「音訳ボランティアサークルえくぼ」（以下、「えくぼ」という。）は高校の周辺（旧五日市町）で活動している団体です。「この地域に都立高校があることは私たちの誇り、協力することで高校生に喜んでもらいたい」と二つ返事で協力していただけたそうです。

まず障害理解から始める

テープの作成までにはいくつかの過程を経なければなりません。まず、事前に視覚障害を理解するために、「はり治療院」に勤めていらっしゃる視覚障害の方に「目が見えない」ということが実際にどのようなことなのか、を話していただきます。また、盲導犬が、道順を知らせてくれたり、信号機の音で横断の判断をしたり、階段や段差の有無を教えてくれたり、と人間顔負けの役割を果たしていることも初めて知ります。この障害理解の事前学習はテープ制作に向けた大変重要な導入部分となります。

朗読テープ制作の隠れた効果

事前学習の後、実際に「えくぼ」の皆さんとテープ制作に入りますが、直ぐに録音をするわけではありません。正しく伝えるために必要な発音や発声、アクセント、速度、滑舌等の練習をします。また、豊かに伝えるために、朗読作品の下調べをしたり、喜怒哀楽を表現する方法を学んだりします。こうした準備をした後に録音に移ります。最初は人前で録音することに照れてしまい失敗が続きますが、次第に真剣になり、互いのテープを聴きあって意見交換をしたりしながら、一人一人のテープが完成していきます。「ここまで的过程が、読解力や表現力、コミュニケーション力、ビジネスマナー等を身につける大きなきっかけになっているところにこのプログラムの隠れた効果があります。」と竹田主幹教諭はおっしゃっています。

地域と学校の関係が深くなつた！

「えくぼ」の代表を務めいらっしゃる木滑恭子（きなめりやすこ）さんは、「生徒が、回を重ねるうちにだんだんと心を開き、真剣に音訳に取組む姿に感動しました。また、登校時、町ですれちがった折、私たちに挨拶をしてくれた時、「やってよかった」と心から思いました。」とおっしゃっています。地域と生徒・学校の関係も近くなっています。

体験が生徒の達成感と自信に

完成したテープは1月にあきる野市内の高齢者福祉施設（あたご苑）を生徒代表が訪問して手渡します。「ちょっと早口だったけど、感情を上手に入れ、若い力のある声で読んでくれてありがとう。これからも様々なものを読んで聞かせてください。テープを持って生徒さんたちが来てくれることを楽しみにしています。」等感謝の言葉が寄せられました。

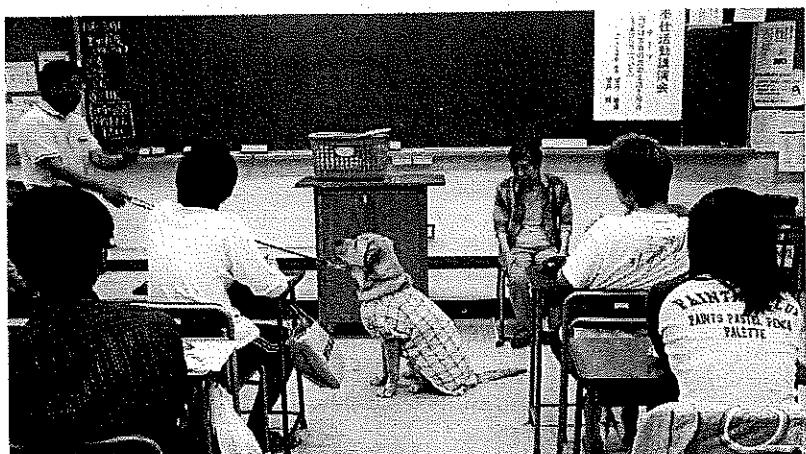
生徒からも「一番うれしかったことは、テープを聞いてもらい、頑張ったねと言われたことです。」「『ありがとうございます。』という感想が出されています。」という感想が出されています。

また「やっていくうちに、自分のためになるのではと思ってきた」「やればできるんだと、自信が生まれました。」という感想から、「苦労してテープを制作しながら生徒自身が様々な力を獲得したことや他人に感謝された体験が達成感と自信につながっている。」と竹田主幹教諭は言います。

まさに「地域と学校が連携した学びの試み」です。

こんな生徒の感想もありました。

「学校は、色々な経験をさせてくれるところ、五日市高校に来てよかったです！」



視覚障害の方と盲導犬を講師に招いた事前学習

事前学習実施前と実施後、事後学習実施後のアンケート結果

(抜粋編)

五日市高校(定) 事前学習 実施後

事前学習実施後のアンケートの概要とその結果

このアンケートは教員の授業の前半終了後に調査したものです。教員は「事前学習を受けて、学校以外の生活で、地元と協力して一つのものごとを行おうという気持ちになりましたか。」について、日本や世界で活躍されている講師の方々のお話を聞き、生徒がそれがあ感じたことをもとにアンケートに答えた。この結果から、生徒が「事前学習を受けて、自分の意見についてほとんど理解していない」という生徒がいる。その一方、地元で本領してきたことが、生徒の経験として活かされたいところがある。その一方、地元については理解が乏しく、本校ではより地域の特色が必要であることがあることがわかった。

事前学習を受けて、年次研究学習の意義について理解できましたか。
質問1 事前学習を受けた後、地元と協力して一つのものごとを行おうという気持ちになりましたか。
質問2 事前学習を受けた後、地域や社会の一員であるという自觉をもつりましたか。
質問3 事前学習を受けた後、地域について理解するようになりましたか。
質問4 事前学習を受けた後、地域の特色や課題など、地元について理解するようになりましたか。
質問5 事前学習を受けた後、あるいは、夏祭りがいいなど社会のマナーが身につきましたか。
質問6 事前学習を受けた後、あなたたちは社会に貢献できると思ったきっかけができたか。

回答選	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
1	6	質問2	9	12	7	13
2	0	1	7	5	4	9
3	1	2	1	4	1	2
4	4	3	3	2	3	1
					選択肢 1(肯定) 2(否定)	

81

五日市高校(定) 事前学習 実施前

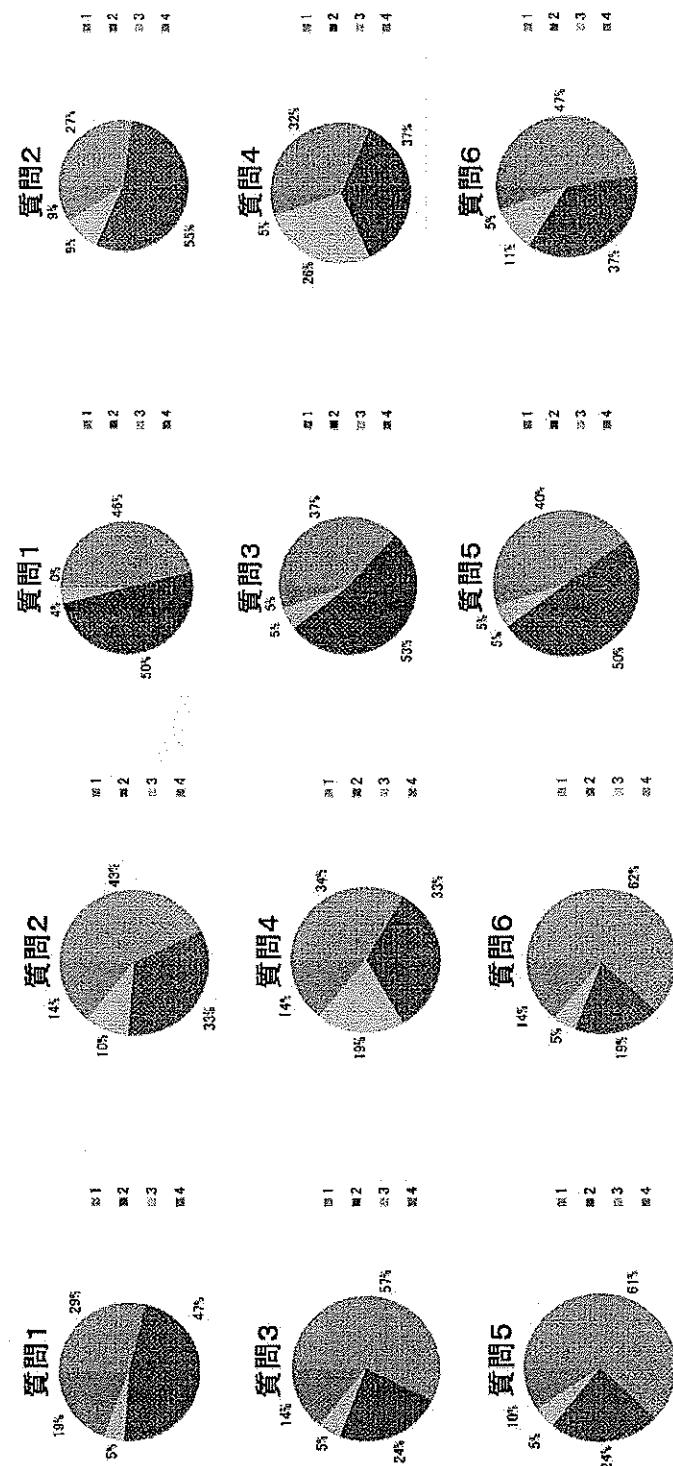
事前学習実施前のアンケートの結果とその結果

このアンケートは「生徒の授業のはじめに問題をもとにアンケートした。この結果から、生徒の意見についてほとんど理解しない」という生徒がいた。その一方、地元で本領してきたことが、生徒の経験として活かされたいところがある。その一方、地元については理解が乏しく、本校ではより地域の特色が必要であることがあることがわかった。

事前学習を受けて、年次研究学習の意義について理解できましたか。

このアンケートは教員の授業の前半終了後に調査したものです。教員は「事前学習を受けて、学校以外の生活で、地元と協力して一つのものごとを行おうという気持ちになりましたか。」について、日本や世界で活躍されている講師の方々のお話を聞き、生徒がそれがあ感じたことをもとにアンケートに答えた。この結果から、生徒が「事前学習を受けて、自分の意見についてほとんど理解していない」という生徒がいる。その一方、地元で本領してきたことが、生徒の経験として活かされたいところがある。その一方、地元については理解が乏しく、本校ではより地域の特色が必要であることがあることがあることがわかった。

回答選	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
1	1	1	1	1	1	1
2	0	0	0	0	0	0
3	1	1	1	1	1	1
4	4	3	3	2	3	1
					選択肢 1(肯定) 2(否定)	



五日市高校(定) 事後学習 実施後

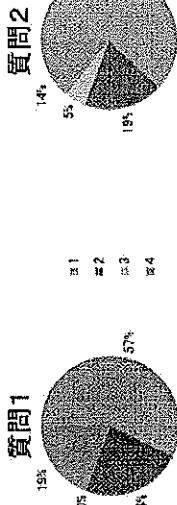
事後学習実施後のアンケートの概要とその結果

このアンケートは「五日市」の授業終了後に配布されたものである。実際には音記がランダムで記入され、生徒それぞれが記したことをもとにアンケートした。

この結果から、どの意見において最も肯定的だった意見が高く、一度の効果が得られた。また、地図の方々を経てコミュニケーション能力を高めながら音記を学ぶことで、より地図を理解する結果にもつながった。

事後学習を経て、参加保有率の変化について経験全体で見ると、
事後学習を経て、学年以外の生徒で、他者と比較して一つのものごとを行おうという気持ちになりました。
事後学習を経て、地図や社会の一面であるという自覚をもつましたか。
事後学習を経て、地図の特色や問題など理解するようになりますか。
事後学習を経て、社会のマナーが身につくと思いましたか。
事後学習を経て、あなたたちは社会に溶けこむ意識を持つ事ができるようになりましたか。

回答数	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6
1	12	13	13	14	13	12
2	5	4	5	3	4	5
3	0	1	0	2	0	3
4	4	3	3	2	4	2
	選択肢 1(肯定)	2(否定)	3(肯定)	4(否定)	5(肯定)	6(否定)



生徒の感想等（抜粋）

(1) 生徒の変容（「自分がどのように成長したか」）

今回の奉仕の体験学習で分かったことは、自分の声にも、自信を持ててもいいということです。僕は自分の声に対してあまり自信が無かったのですが、音記の活動では予想に反して評価が高かったです。聞きなればいけないところもありますが、自信を持って発声していくと思いました。

まず何よりもアドバイスの無い人達にはもたれないと言いたいです。今まで自分で感じたことのない気持ちや感情を沢山体験できました。
私は今回が初めてで「すみません」といふ気持ちで達成感を感じました。それと他の人は活動をしたり他にいたいのかどうかなども増えましたが、自分自身のためになりました。相手にも自分のためにも良いこととして感じます。これからも続けていきたいです。

自分がどのように成長したかについてこういふ音記をしていましたが、なかったので気持ちを入れて大量充読でいふ事ができるようになりました。人の役に立てるかと思いますが、あの音記した人が人の役に立てると思ふらしいです。

最初はただの音記しか思っていませんでした。でも少しずつ楽しくおかしいところがあり、またやりやすくなりました。この中で自分が変わったのかが、なんだか分かりました。成長したのかな?とか思いました。

(2) 生徒の変容（「今回の体験活動でどんなことを学んだか。また、今後の生活にどう生かしたいか」）

私が音訳を初めてやった時は、正直言って不安ばかりが募っていました。何処かと言うと、私は早口でしかも滑舌が悪いのに録音をして早く聞き取れないんじゃないかと思っていました。でも、実際に音訳の授業を受け文を録音して、自分が実際に聞いてみて思ふ事があります。それは少しずつ自分の不安が解消されて聞きやすくなっていた事です。これを経て挑戦する事は良い事だと思ったので、どんな事を挑戦していく事をこれからいきたいです。

先日はこの体験学習の音訳をしたときに、最初は「無い」とワクワクしながらいました。そこから、聞きやすいように声のボリューム(音量)に気をつけたり、他に滑舌、箇点がない言い間違いなどをどうだけはいようにすることでした。本音(CD録音)の時はどこをキチンとしよ、何度も噛んだり、滑舌が悪くなる、そこから、おしゃべり時、「お落着」と声をかけられたまま何とか終わらざるを得ませんでした。このような楽しいことで人の役に立つことなら、またボランティアなどできることがあるたら、自分から進んでやりたいです。

音訳は僕にとって初体験だったのですごく緊張したのを見えています。

最初は色々と注意されることが多いかったけど、段々読み方や声の大きさなどの注意をされることが少なくなったっていったことがすごくうれしかったです。

これが社会に生かせるよう頑張りたいです。

秦仕の授業の音訳をやりました。私は人前で「や」「え」の大音手で、最初はいやだなと思いました。さて、や、2123方にだんだんな声でました、先生も1111とおれ、たゞ。録音する時はすごく緊張していました。終り、かく先生に「最初よりせんせんよくなれ、たまーい?」言おうとすごく嬉しかったです。
すごくいい経験でした、と思います。
今後は、親せき、友達たちがいて読み聞かせをしてあげたいです。

ほいほい、秦仕の授業は、最初は、とてもだるいね、と思いましたからやめていました。だけど、秦仕の授業続ける是、これが、これがいいと変わっていました。最初、だるいと思つた授業を続けるは、こんな人のせいにはならないと思っていました。最初、体験学習での録音は、さうしたからやっていたけど、人間いたと思つてやっているうち、あまりモニタへ入らないしないで出来るようになってしまった。でも、ぼくは、滑舌があまりよくないのですが、なかなかよくながらやるのが大変でした。でも、秦仕の人達のアドバイスを受けてから、いくうちに、ちゃんとすうとうってできました。これから、このまま、どこがあると思うないけれど人のためにいろいろ出本するなりたいと思った。

音訳は、発音や声の大きさ、1-2-3の正しい字の読み方、正しく読み方にしていて、録音一つ3回のにエフ-ジタサの文でも、20分~20分ぐらりかかるって、とても大変でした。日に日に文を読んでいくうちに、色々な発見も、特に読めた時うれしく、どんとこまなくなっていき、元いち、奥、で録音する事ができました。ボランティアとして、人に聞いていただきのけ、しても、ほかにしゃべった生れどり、もし、聞いていた人のハハにすこして、毛利の声がひとりたのなら、うつくしく思ひます。音訳をして、声の大きさや発音は、またのひととひととのコミュニケーションの中で、とてもかわいい事だと、立たれて、思いました。今後率先して園児3人を助けたり、親せきの友達たちに読み聞かせをし、ホールドホールドなど仕事につづく勉強していきます。